

何となく思ふに一日は往來をせしむる
 果ハ照家公の家の子弟由八郎と名を
 このころハイカ見た事に入んは千文字の
 法^{のつ}後^ひケ^つ実^いこゝに満延是をうらみけり
 軍卒の中より一人名をアおとすこゝ新^{にい}
 なれ^{なれ}もれもあんと申する者一和^わ
 馬^{あそ}一苗^{めい}にそらんバとねより山恒^{やまへ}等^ら
 もろなる色バ小膝^{こひざ}を折^{をり}て叩^{たた}きける八節

兵衛ハ家出さんとする處を例の孫の椿
 庵延吉白を討つて六田ハ庵延吉ハ首を
 胴にお連れもろき處後をとりける是れ
 んと敵味可共と見つひと取らるゝや
 迎行勢より高きあり海一はても天候も
 満延うゝとあ陸軍も照宗もと敵とみ
 村回ち市も者うとと又屋敷り市長刀獲
 おとらうとらるゝ能登も屹とらん西平陸軍